

平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	田舎体験楽校！横浜北永田地区交流事業
事業主体 (連絡先)	麻績村サポーターOMIMO (副代表久保田芳永 090-9664-6725)
事業区分	地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	782,308 円 (うち支援金：476,000 円)

事業内容

横浜市南区北永田地区の住民の方々を招いて、田舎体験楽校の「おやきづくり体験・稲刈り体験・麻績村の中心部の散策・麻績学舎の体験」を行いました。
また、横浜市南区の永田地区センター祭りに、麻績村の農産物・そば等の販売・PRを行いました。
この事業は、横浜の住民の方々の交流を深める目的と、村内の団体が連携することで、参加団体の活性化の相乗効果が図れることを目的に行いました。



【稲刈り体験 9月 27日】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 田舎体験楽校に参加することで、物見の観光にはない交流と、麻績の暮らしの一端を知ってもらうことができました。また、横浜のイベントへは、OMIMOのメンバーだけでなく各団体も参加し、田舎体験楽校に参加した北永田の住民の方々も一緒に、おみの商品の販売やPRを行い更に親交が深まりました。
- 各団体が田舎体験楽校の事業で連携したことにより、個々の団体の活動の枠を超え、新商品の開発・農家民泊に向けた取り組み等、相乗効果が出てきました。連携する大切さを各団体が意識し動き出すきっかけになったと思います。

【目標・ねらい】

- ① 交流の促進
- ② 団体の連携による相乗効果
- ③
- ④

※自己評価 【 B 】

【理由】

当初、NPO 法人化も視野に入れて事業を行いました。が、資金面・組織面等の条件整備に、まだ課題があると判断したことです。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

北永田地区との交流を今後も続けるために、お互いに経済メリットが出るような取り組みをしていきます。北永田の住民の家で、月1回のマルシェの開催や、農家民泊やほっとステイなど受け入れ態勢や田舎体験楽校の体験メニュー作りなど、各団体と連携しできるだけ住民主導で行っていかうと考えています。空き店舗を利用して、各団体が共有できる拠点づくりに着手始めました。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある